▶「おさえておこう！発達障害と二次障害～事例から読み解く対応とケア～」感想

▶講師：東京大学医学部付属病院　金生 由紀子先生

▶オンデマンド研修

今回、オンデマンドという形での研修に際し、発達障害に付随して二次障害というものがある事を初めて知りました。近年よく耳にする「大人になって判明した発達障害」という言葉がありますが、事例となった方たちが、自身が発達障害だったとわかるまで、どれだけ苦しかったであろうかと、考えた次第です。自身の今までの生育歴にも重ねつつ、拝聴しました。

　特に、社会に出て環境に変化があり、そこで発達障害であることがわかった事例は、興味深くもあり、専門的なケアや理解や知識が必要だと感じました。社会に出てから職場や学校含め、周囲に配慮をしていただきながら働くという事のハードルの高さは、計り知れないと感じます。更に、そこに二次障害も加われば、精神的なプレッシャーも重なり、支援も充実したものにしなければならないと思いました。

　私自身、しんごうでご縁があって就労させていただく事になってから、配慮をいただきながら働くことができている事を実感しています。発達障害に関わらず、一緒にいる人からの支援、配慮、理解を得る事の難しさを痛感しながらここまで来ました。事例に出てきた方が、いかに安心して社会生活を送る事ができるか、家族や専門職、関係機関、最も、本人とも深く連携していく事がいかに大切かを学びました。

発達障害と診断を受けていなくても「自分も発達部分において、もしかしたら障害があるのかもしれない」と思う事も、自分自身多々ありました。母がよく、小学生時に提出する私に関する情報のなかで「頑固すぎるところがある」と記載していた事を思い出しました。言い換えれば「こだわりが強い傾向がある」とも言えたのかとも思います。社会（学校）への配慮を、求めるほどだったのかと、研修を受けながら感じていました。

発達障害のある方だけでなく、全ての障がいのある方が、安心して生活していくための最大の味方となるには、まだまだ経験や学びが足りないと感じながらも、これから自分にできる事は何なのか、自身はどのような支援者になっていきたいのか、考える必要がある研修となりました。

丸山 舞子